

日本の石橋を守る会 会長 橋本 幸一 事務局 〒869-4302 熊本県八代市東陽町北 98-2 八代市東陽石匠館内
TEL.0965-65-2700 メール koho@ishibashi-mamorukai.jp ホームページ <http://www.ishibashi-mamorukai.jp>



耶馬溪橋 写真提供/中村まさあき

国指定重要文化財に 日本最長石造アーチ橋「^{やばけいばし}耶馬溪橋」

国の文化審議会は今年5月、大分県中津市の8連アーチ石橋「耶馬溪橋」を国の重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申しました。山国川に架かる同橋は1923(大正12)年に完成。橋長116mの日本最長の石橋です。手掘りのトンネル「青の洞門」に続く「競秀峰」の景観を川の対岸から展望するため、旧東城井村が観光道路の一部として架設したといわれます。耶馬溪橋は自動車交通に対応した石橋で、たび重なる豪雨にも耐え、わが国の近代観光開発史上の価値も認められました。(広報部)



中津市
耶馬溪橋チラン



中津耶馬溪
観光協会

第43回大会 八代市日本遺産活用協議会と共催



江戸時代の干拓工事の様子を伝える郷土芸能「芝口大鞆節」(同保存会)が記念講演会のオープニングを彩った撮影/中村まさあき

第43回大会が5月21・22日に熊本県八代市で開催されました。コロナ禍の影響で2020(令和2)年度から2年連続で大会が中止になったため、開催は3年ぶり。

同市は2020年、市内に残るめがね橋や干拓樋門など、石造りの文化に関する構成文化財25件をストーリー化した「八代を創造(たがや)した石工たちの軌跡～石工の郷(さと)に息づく石造りのレガシー～」が日本遺産に認定されています。本大会はその認定を記念するイベントとして八代市日本遺産活用協議会(会長は中村博生市長)との共催で開催。記念講演会のステージでは郷土芸能も披露されました。(次面に続く)



日本遺産
石工の郷



八代市日本遺産活用協議会
インスタ



マンガ「八代石工ものがたり」

大会1日目の総会では、上塚尚孝前会長の逝去を受け、副会長の橋本幸一氏が第6代会長に就任することが承認されました。橋本新会長は「皆さまのお力を借りながら精一杯、頑張る覚悟です。本大会が石の文化の再発見につながればと期待しています」とあいさつ。八代市日本遺産活用協議会が新たに本会の団体会員となったことも発表されました。

記念講演会では3人が登壇。熊本大学名誉教授の山尾敏孝氏が「石橋の保存・活用に向けての点検と維持管理について」、八代市文化振興課職員の村田仁志氏が「八代市の日本

遺産について～八代が誇る歴史・文化・風土の魅力～、八代市東陽石匠館館長の上塚寿朗氏が「八代市の石工について」と題した講演を行いました。

その後に意見交換会が行われ、八女上陽の「ひふみよ橋」を守る会(福岡県)の活動、鹿児島県鹿屋市の「大園橋」保存活動が紹介され、本会の今後の広報の在り方などについても意見が交わされました。

大会2日目は現地見学会が行われ、参加者は八代市東陽石匠館や日本遺産の構成文化財であるめがね橋群などを訪れました。(広報部)



第6代会長の橋本幸一氏(69)。八代市議会議員で橋本勘五郎の子孫



本会HP・第43回
大会スナップ写真

「新地橋」を移設保存 歴史を生かしたまちに

長崎県島原市に残る単アーチ石橋「新地橋」の移設工事が終わりました。同橋は島原鉄道の島原船津駅南西の入り江に通じる水路に架かっていましたが、高潮浸水被害防止などを目的に市が入り江と水路を埋立てて多目的広場を整備。新地橋は文化財としての指定はありませんが、歴史的価値が高い貴重な土木遺産として、歴史を生かした観光・住環境の整備を目指して広場内に移設保存されました。なお広場はまだ立ち入り禁止。

橋の創建は1870（明治3）年で、橋長約9.8m、橋幅約4.7m。1949（昭和24）年に改修されたコンクリート製の高欄はこのたび新設されました。埋立てられた入り江は1792年の雲仙・眉山の山体崩壊に



入り江を埋め立て整備された多目的広場に
移設保存された新地橋
写真提供／島原市

よってできたもので、かつては潮待ち風待ちの帆船が停泊する船溜まりとして利用されたといわれています。（広報部）



移設前の新地橋
（島原市 HP）

大隅史談会 大園橋撤去の慎重な審議求め再び陳情

鹿児島県鹿屋市の2連アーチ石橋「大園橋」（市指定文化財）撤去問題の続報です。住民の撤去要請を受け昨年、市は撤去を決定。大隅史談会（瀬角龍平会長）は慎重な議論を求める陳情書を市長や市議会議長、市教育長、市文化財保護審議会会長宛てに提出しました。しかし昨年度の市議会文教福祉委員会での審議は未了。

4月の文化財保護審議会では、国と県の土木担当者から「大園橋撤去によって浸水被害がなくなるとは言えない」との見解が示され、審議は継続。史談会は8月31日、再度の陳情書を市議会議長宛てに提出し、専門家や市民からの意見聴取、公開協議などを求めました。しかし9月開催市議会でもたもや継続審議となりました。



大園橋の上流側水切り石前には、金網のかごに石を詰めた蛇籠（じゃかご）が設置されている
写真提供／小手川清隆

9月24日には史談会や地元の皆さんで大園橋の清掃作業を行い、その後、石橋で垂水市の俳句の会が「吟行」を行いました。石橋が残る地元の風土を守る活動が続けられています。（広報部）

「宮ヶ原橋架設100年記念・特別企画」10月23日開催

福岡県八女市の星野川に架かる4連アーチ石橋「宮ヶ原橋」は今年、架設100年。「八女上陽の『ひふみよ橋』を守る会」主催の記念イベントが開催されます。

日時 2022年10月23日（日）10時

場所 「宮ヶ原橋」とその周辺および「ほたと石橋の館」

内容 100年記念橋渡し、記念講演（株式会社建設技術センター代表取締役社長 武末博伸氏）など（聴講無料）

問い合わせ先 Tel.0943-54-2150（ほたと石橋の館）



「ほたと石橋の館」
フェイスブック

橋本勘五郎生誕200年記念講演会を動画で配信

現在も残る数々の石橋を架けた種山石工・橋本勘五郎。今年はその生誕200年の年です。「くまもと県民交流館パレア」生涯学習推進センターはそれを記念し、「肥後の名工 橋本勘五郎生誕200年記念講演会」を9月26日に開催。八代市東陽石匠館館長の上塚寿朗氏が講師を務め、その模様を収録した動画が10月中旬から無料配信されます。大分県「耶馬溪橋」の映像紹介もあり。

問い合わせ先 Tel.096-355-4312（くまもと県民交流館パレア）



パレア
生涯学習センター